

(楕形カーニバル)

コロナウイルス感染防止対策マニュアル

山梨陸上競技協会

【1】 大会を実施するにあたっての感染症対策

- ① 3密を回避する配慮を徹底して行う。
- ② 競技者、関係者の自覚（自ら自分の身を守り、他人に感染させない）を促す指導をする。
- ③ 活動再開ガイドラインと施設利用に関するガイドラインを遵守する。

【2】 具体的な対策

① 大会への移動方法

- ・交通手段については感染リスクの少ない方法での現地集合をお願いする。

② 各場所の集合形態

- ・「ソーシャルディスタンス」「マスク着用」「手指消毒、手洗い」の徹底。

③ 招集の方法について

- ・トラック種目の招集所は100mゴール地点付近のトイレ前（競技場外）に設ける。フィールド種目は各種目のピットに集合する。なお、待機場所では1.5m間隔で指定場所を作成する。
- ・招集は出場できる服装で集合し、密集を避け係員の指示に従うこと。
- ・その他詳細は「大会規則及び選手注意事項」を参照のこと。

④ 服装について

- ・審判員は、マスクは全員が着用、ビニール手袋・軍手も推奨する。
- ・選手はマスク着用（競技時は外してよいが、待機中は着用する）。

⑤ 各団体の対策

- ・各団体でテントやシートでベンチを作る場合は、平素よりもスペースを広めに取ることと、ベンチ内で密集しないよう徹底する。また、そのことを係員が巡回指導を行って徹底する。
- ・大会中、仲間との握手やハイタッチ、ハグ等の行為がないよう事前に各団体で指導を行う。
- ・当日出たゴミについては各団体で責任を持って持ち帰る。

⑥ 観客席対策

- ・無観客とする。
- ・観客席は解放するが、メインスタンドに入場できるのは、大会役員・監督コーチ・報道関係者等に限り入場を認める。サイド、バックの芝生スタンドは選手・大会役員・監督コーチ・報道関係者が入場できる。

⑦ 消毒対策

- ・各団体で消毒液を持参し、選手が競技場へ来た際と帰る際、また、ベンチ等に常備しておき頻繁な消毒を徹底する。
- ・玄関・各ゲート等の出入口と必要な競技場所に消毒液を設置し、選手・競技役員・関係者の消毒を促す。競技前後の導線を示し密を回避する。
- ・共用の器具に触れる種目では競技前に手を消毒し、競技後にまた手を消毒するという方法を取る。競技後手洗い等でのタオルの使い回しは厳禁とする。

例：100m：スタート前に手を消毒→スタブロに触れる→ゴール後に手を消毒
砲丸投：投擲前に手を消毒→砲丸を投げる→1投投げる毎に手を消毒

⑧健康チェック・参加要件

- ・選手は大会当日までのJAAF健康チェック表（陸協HP掲載）または各校でとりまとめた健康チェックシートを提出すること。各団体においては事前に選手が健康であることを確認した上で、保護者に参加の承諾をもらう。症状がある場合は団体責任者に報告し、大会への参加は自粛する。選手以外のマネージャーや競技に参加しない者についても同様とする。
- ・当日の検温欄に記載がない者は、当日備付の体温計を使って測定し、参加の可否を判断する。
- ・試合後も来場した関係者すべてが健康チェックを続け、症状が4日以上続いた場合には各団体責任者に連絡する。責任者は山梨陸協に連絡し、該当者の健康チェック表を回収・提出し、その後の指示を仰ぐ。

⑨競技運営について（別紙競技注意事項参照）

⑩救急・救護体制について

- ・大会中、救護室に医療関係者が常駐する。
- ・医療関係者の指示の下、救護室の他に隔離室を設け、環境を整備する。
- ・近隣の医療機関と連携し、必要な場合はすぐに搬送できるようにする。

⑪報道関係について

- ・報道関係者についても健康チェックシートの提出を義務付け、事後の健康チェックも継続する。4日以上症状が続く場合は山梨陸協に連絡する。
- ・取材エリアを設ける。

⑫日本スポーツ協会及び日本陸上競技連盟の示すガイドラインの更新を注視し、その内容を参考に、本マニュアルの更新を行う。（山梨陸協HP掲載）